

コロナ禍における幼稚園教育実習での学生の学び ——実習事後質問紙調査から——

Student learning in kindergarten training during the
coronavirus pandemic:
From a questionnaire survey conducted after
kindergarten training

濱本 麻理野

Marino Hamamoto

はじめに

2020年より発生した、COVID-19(以下新型コロナウイルス)の影響は依然として収束の兆しが見えず、今後も不透明な状況である。本学では、2021年度における保育所実習・施設実習に関して、新型コロナウイルスによる影響で、時期を変更することとなった。幼稚園教育実習においては、予定していた8月20日から9月16日は、8月2日より蔓延防止措置、8月27日(～9月12日)より緊急事態措置区域であったが、予定していた全園に実習の受け入れをしていただくことができた。

また、1年生の後期から2年生の前期まで学生が主体となり実際に子どもや保護者と触れ合いながら実践力を養い子育て支援や地域支援の在り方を学ぶ場として本学では「遊びの広場」を設けている。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、遊びの広場の中止を余儀なくされ、子どもや保護者と実際に関わることができず実習を行うに至った。

本研究は、新しい生活様式に沿った園での感染対策、保育実践は勿論、様々な工夫をする保育者の姿、コロナ禍での子どもの様子など、幼稚園教育実習で学生はどのような事を捉えたのか。また、これからの実習指導における指導の在り方について検討することを目的とする。

調査方法

対象

北海道 A 町専門学校 こども学科

2年生20名 回収率100%

調査時期

2021年10月

調査方法

幼稚園教諭免許を取得する幼児教育専攻の学生を対象に幼稚園教育実習事後指導の授業内で質問紙調査を行った

調査項目

1. 園児はマスクをしていましたか
2. 園児のマスクはどのようなものでしたか
3. 職員はマスクやフェイスシールドなどをしていましたか
4. 職員のマスクやフェイスシールドはどのようなものでしたか
5. 園児の体温計測や体調の記録は誰がどのように行っていましたか
6. 職員の体温計測や体調の記録はどのように行っていましたか
7. 園舎内や玩具の消毒はどのように行っていましたか
8. 園舎内や玩具の消毒はいつしていましたか
9. 食事時の感染対策はどのようなものでしたか
10. 自由遊びの中での感染対策はどのようなものでしたか
11. クラスの活動（設定保育等）の中での感染対策はどのようなものでしたか
12. あなたが実習前や実習中にPCR検査や抗原検査を受けたりすることはありましたか
13. コロナ禍での実習の感想

結果と考察

園児のマスク着用については表1に見られるように、園により違いがあることがわかった。「幼児期についてはマスク着用によって息苦しくないかどうかについて、教職員及び保護者は十分に注意すること。なお本人の調子の悪い場合や、持続的なマスクの着用が難しい場合は無理して着用させ

表1 園児はマスクをしていましたか (n=20)

	人数(人)	(%)
全園児がしていた	10	50
全園児がしていたが運動時ははずしていた	2	10
4、5歳児はしていたが運動時ははずしていた	1	5
ホールに集まるときや園外保育に出るときだけしていた	2	10
全体で2、3名はしていた	1	5
していなかった	4	20

る必要はない¹⁾」ということから、運動時ははずすことやホール等に来るときには配慮している。園児のマスクの素材についても、表2で見られるように、園により様々である。

表2 園児のマスクはどのようなものでしたか（複数回答）(n=20)

	人数(人)	(%)
不織布マスク	8	40
布マスク	14	70
ポリエステルマスク	1	5
ガーゼマスク	2	10

職員のマスク着用は、100%と全園で常態であった。保育現場のための新型コロナウイルス感染症対応ガイドブック第2版（2021.6）では、「無症状や軽症の人にもいることから、症状を呈していなくても感染の蔓延を防止するために皆がマスクを着用することが勧められています。」²⁾とある。マスクは、相手のウイルス吸入量を減少させる効果より、自分からウイルス拡散を防ぐ効果がより高くなる³⁾ということ。また、職員のマスクの素材については、不織布で作られているマスクは適切に使えば布やウレタン製の物よりも2倍ほど飛沫捕集力が高いこと（2021.3 理化学研究所計算科学研究センター）が内閣府では推奨されている⁴⁾ということが浸透していることもあり、職員のマスクやフェイスシールドはどのようなもの（素材や色）でしたかの問いに対しては、100%不織布のマスクをしていた。また色については、白又は明るい色を着用していることがわかった。

園児が登園前に家庭での検温をするようにしている園は表3にあるように80%で、職員において

表3 園児の体温計測や体調記録は誰がどのように行っていましたか（n=20）

	人数(人)	(%)
登園前に家庭で計測し保護者が体温体調を記入用紙に記入し登園時提出	9	45
登園前に家庭で計測し保護者が体温体調を連絡帳に記入	3	15
登園前に家庭で計測し登園時に保護者が記入用紙に記入	3	15
登園前に家庭で計測し保護者がアプリケーションに入力	1	5
登園時に職員が計測	4	20

表4 職員の体温計測や体調記録はどのように行っていましたか（n=20）

	人数(人)	(%)
出勤前に計測し職員室の用紙に記入	15	75
出勤前に計測し記入用紙に記入し提出	2	10
出勤時に計測し記入用紙に記入	3	15

も表4にあるように出勤前に計測する園が85%であった。新しい生活様式（厚生労働省）では「毎朝の検温測定、健康チェック、発熱又は風邪症状がある場合は無理せず自宅で療養」⁵⁾とあり、健康観察に十分配慮している。また送迎時に感染防止のため保護者は、園内に入らず職員が登園時に計測する園もあった。

表5にあるように、園内の消毒が徹底されていることがわかった。厚生労働省では「諸外国の知見を踏まえ、消毒剤や、その他ウイルスの量を減少させる物質について、これが人の目に入ったり、皮膚に付着したり、吸入されたりするおそれがある人状況で空間噴霧をおすすめしていません」⁶⁾とある。そのため85%の園が登園前や降園後の園児のいない時に消毒をしていた。

表5 玩具や園舎内の消毒はどのように行っていましたか（複数回答）(n=20)

	人数(人)	(%)
消毒液をパーテーションや玩具に吹きかけて拭く	6	30
消毒液を手すりや椅子、机に吹きかける	7	35
タオルを敷き、その上で玩具に消毒液を吹きかける	1	5
空間消毒	1	5
廊下に次亜塩素酸を吹きかける	4	20
消毒液と水モップで園舎内を消毒	1	5
トイレに消毒液を吹きかける	6	30

全園で食事時の感染対策を行っていたが、表6にあるように園によって様々であることがわかった。小学校、中学校及び高等学校等における新学期に向けた新型コロナウイルス感染症対策の徹底等の通知では、「給食、弁当、部室での教職員の食事などを含め、すべての飲食の場面において、飛沫を飛ばさないような席の配置や、原則として会話を控えるなどの対応を工夫していますか」⁷⁾というチェックリストに従い工夫をしている園もあることがわかった。

表6 食事時の感染対策はどのようなものでしたか (n=20)

	人数(人)	(%)
パーテーションを置いていた	6	30
食事前手指消毒	4	20
黙食	6	30
大きな声で話さない	1	5
同じ方向を向いて食事をする	2	10
一斉に食べ始めるのではなく、数名に分かれて食事をする	1	5

「幼稚園教育では、幼児の興味や関心に応じた遊びを重視しているが、感染リスクを踏まえ、幼児が遊びたくなる拠点の分散、幼児同士が向かい合わないような遊具等の配置の工夫や教師の援助を行うこと。幼児が楽しみつつも接触等を減らすことができるよう配慮する」⁸⁾ということから、表7、8であるように、換気、配置の工夫、物の共有の配慮等をしていることがわかった。

表7 自由遊びの中での感染対策はどのようなものでしたか（複数回答）(n=20)

	人数(人)	(%)
窓を開ける	19	95
密にならないよう、時間、クラス、場所を振り分けていた	4	20
自由遊び後手を洗う	1	5

表8 クラス活動（設定保育等）の中での感染対策はどのようなものでしたか複数回答）(n=20)

	人数(人)	(%)
自分の道具を使う・物の共有はしない	14	70
密にならないよう、座席を決めていた	10	50
間隔をとって並ぶ・床に座る	2	10
外での活動を多くしていた	4	20

あなたが実習中や実習前にPCR検査や抗原検査を受けたりすることはありましたかの質問に対しては、15%の学生があったと回答をした。あったと回答した学生の理由には「陽性ではないことを示すため実習前にPCR検査を受けた」「休園になり実習中にPCR検査を受けた」「家族が濃厚接触者になりPCR検査を受けた」とあった。教育実習事前指導の授業内では、実習2週間前からの検温・健康観察チェックシートに記入について指導している。これからの新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら、実習指導内でどのように健康観察について行っていくか検討するべきだと考える。

幼稚園教育実習をする意義について三つのことが挙げられる。一つ目は、保育実践力の習得である。学んだ理論や技術を実践・体験することによって意味を理解し実践的学習へと深化することができる。二つ目は、保育者の姿から学ぶことである。保育者がどのように保育を進めているか、必要な経験が得られるような環境構成や援助を行っているのかを観察し学ぶことができる。例えば、学んだ理論や技術で対応できない場面に出会った時の保育者の対応など、実際に見ることができる機会は実習中だけである。三つ目は、社会人・一人の保育者としての自覚や責任を学ぶことである。保育者と協働しつつ保育者の役割を実感し、その責務を改めて知ることや、社会人としての資質を磨く機会である。また、実習の目的は、幼稚園で体験的学習をして保育の実際について理解することである。保育の流れ幼稚園の在り方など幼稚園を学ぶ。子どもとの生活を通して幼児理解を深めること。保育者を観察し理解を深めること。省察を繰り返し自分自身について知る事である。コロ

ナ禍での実習に対して、感染症対策を十分に講じて実習に臨んでいたことが分かった。しかし2週間前からの行動制限や健康観察を行っていても、自己の感染や園へ持ち込んでしまうという不安もっている学生も多くいたが、2021年度においては、4週間全員が実習を実施することができた。学生は感染対策を講じて保育をする保育者から、コロナ禍で安心して遊ぶためにはどうしたらよいか、感染症についての伝え方、行事が無くなってしまったけれど楽しく過ごすためにはどうしたらよいか、マスク着脱の対応等を学び、実際に子どもたちと接することで、どのように対応すべきかを知ることができた。また自身の保育者としての責任について、コロナ禍における幼稚園教諭の仕事を経験的、総合的に認識し子ども理解を深めることのできる体験をすることができたと考える。

コロナ禍での実習の感想 多かった記述を抜粋

「マスクをしていたため表情が読み取りづらかった。」「マスクを外す子への対応が難しかった。」「コロナ禍で実習を受け入れてくださって感謝しなければならないと思った。」「マスクをしたまま歌うことが辛かった。」「徹底した対策をしたので園児も安心して活動していた。」「子どもたちへ感染症対策を伝えることが大切であり、難しいと感じた。」

まとめ

質問紙調査から職員のマスクの着用、検温、手指消毒、園内消毒など衛生管理の徹底、適宜換気を行うなど感染症対策をしていること、また、子どもの体調記録、観察などに留意し、園での感染防止に細心の注意を払っていることを学んだことがわかった。

しかし、園により違いがあり、園児がマスク着用をする園、着用しない園、食事の時に黙食をしている園や大きな声で話すことはしないように促す園など、保育方針の違いがあるため、各園の方針や事情などをリサーチし、事前に理解しておく必要がある。

実習の感想(自由記述)では、子どもがマスクを着用していたため表情を読み取りづらかったとの記述が多かった。子ども理解とは、「一人ひとりの幼児と直接触れ合いながら、幼児の言動や表情から考えなどを理解し受け止め、その幼児の良さや可能性を理解しようとする」とされる。保育とは、子どもを理解することを出発点に、日々の関わりや保育環境を整えていく⁹⁾。そのためには、できるだけたくさん子どもたちと関わる機会を多く持ち、観察し、共感的理解をする経験が必要となる。従ってマスクによる影響で子どもたちの表情から感情を読み取る、あるいは、理解するという保育にとって重要な実習における学びが不十分であったと捉えることもできる。

新型コロナウイルス感染症の影響により、学生は、保育・施設実習の延期、1年生の後期から2年生の前期まで学生が主体となり実際に子どもや保護者と触れ合いながら実践力を養う遊びの広場の中止等子どもとの関わりが少ないため、子どもの表情から読み取ることの難しさを感じたのではないかと考える。

本学の遊びの広場は、実際に子どもを対象にした活動を計画し、実践、振り返り、改善の方向性

を考え実践力を養う取り組みである。毎回関わる子が同じではないが、子どもたちと多く関わる機会を持つことが子ども理解につながっている。

感染症等により、今後も実習の時期の変更の可能性も考えられるため、実習の事前準備の段階でどの時期にも対応できる指導案の作成、コロナ禍でもできる遊びの研究が必要になってくる。また、幼児教育での新型コロナウイルス感染症対策、対応、保護者支援の在り方等の学びを考える必要がある。コロナ禍だからできる活動コロナ禍でもできる活動を研究し、まずは学生間において実践シミュレーションを重ねることにより、様々な制限が課せられても対応できる力量が必要になる。また、これからの教育実習指導の課題として、実習園と養成校と協働し、園での感染対策の現状や保育者の環境構成、子どもとの関わりについての配慮点、保育実践の具体的な例等を共有し、授業内で事前にコロナ禍における保育を学ぶことや効果的な実習となるよう実習園と協議していくことが必要になるであろう。授業改善のためオンライン技術も導入し園との連携を図ったコロナ禍にある保育の場における学びや卒業生から園の実情を学ぶ機会を設ける取り組みも検討していきたい。

引用文献

- 1) 文部科学省. (2021). 学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生マニュアル「学校の新しい様式」
〈https://www.mext.go.jp/content/20210428-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf〉 (2021年11月13日16時30分)
- 2) 一般社団法人全国保育園保健師看護師連絡会学術委員会. (2021). 保育現場のための新型コロナウイルス感染症対策の対応ガイドブック (p.8)
〈<https://www.hoiku-kango.jp/wp-content/uploads/2021/07/>〉 (2021年11月13日17時00分)
- 3) 厚生労働省. (2021). 新型コロナウイルスに関する Q & A (一般の方向け) 4 - マスク消毒液に関するもの
〈https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/dengue_fever_qa_00001.html#Q4-1〉
(2021年11月14日18時10分)
- 4) 内閣官房. (2021). 感染拡大に向けた取り組み内閣官房新型コロナウイルス等感染対策推進室
〈<https://corona.go.jp/proposal/>〉 (2021年11月13日20時00分)
- 5) 厚生労働省. (2020). 新しい様式
〈https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_newlifestyle.html〉 (2021年11月14日19時30分)
- 6) 厚生労働省. (2021). 新型コロナウイルスに関する Q & A (一般の方向け) 5 - 人がいる空間で消毒剤の空間噴霧は行ってはいけないのですか
〈https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/dengue_fever_qa_00001.html#Q4-5〉
(2021年11月14日18時15分)
- 7) 文部科学省. (2021). 小学校、中学校及び高等学校等における新学学期に向けた新型コロナウイルス感染症対策の徹底等について
〈https://www.mext.go.jp/content/20210820-mxt_kouhou01-000007004_1.pdf〉 (2021年11月16日17時00分)
- 8) 文部科学省. (2021). 学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい

生活様式」～(2021.4.28 Ver.6)

〈https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/mext_00029.html〉(2021年11月16日17時30分)

9) 清水益治・無藤 隆. (2021). *新保育ライブラリ子どもを知る子どもの理解と援助* (p.3). 北大路書房